

# 松本秀峰生 模擬国連へ

## 大使役の高校生が国際問題議論



全国大会に向けて英語の資料を  
読み込む伊藤君（右）と中沢君

## 都内で14日から開催 上位を目指し意欲

松本市の松本秀峰中等教育学校5年の伊藤河間君(17)と中沢冬芽君(17)が14、15日、事前に決められた国の大使の立場になつて高校生が国際問題を議論する「全日本高校模擬国連大会」に初出場する。2人はアルジェリアの大使役が決まっており、4日の放課後は、英語の資料を読み込み、発表する内容をまとめていた。

大会会場は国連大学（東京）で、9回目となる今回の議題は「移民」。過去最多の136校（203チーム）から応募があり、64校（80チーム）が書類選考を通過した。2人1組で担当国の利益のために英語で交渉し、主張が対立した場合は調停してまとめる能力などが審査される。

2人は初挑戦だった昨年は、書類選考を通過できなかつた。その後、2人はさまざまな課題を抱えるアルジェリアを選び、同大使館に連絡をしたり、国連のホームページなどで外交姿勢や環境や貧困問題などを調べたりして積極的に情報収集。4日は「（アルジェリア）国外への頭脳流出をどう防ぐか」「研究学園都市を設けられないか」と話し合い、戦略を練つた。

大会はユネスコ・アジア文化センター（東京）などの主催。大会の上位6チームは来年5月に米ニューヨークで開く国際大会の出場権を得る。外交官になる目標を持つ中沢君は「将来につながる機会にしたい」。国際機関などで活躍する将来像を描く伊藤君は「ニューヨークを目指して頑張りたい」と話していた。